

**令和3年度 西東京市立中原小学校 学校評価計画表**

学校教育目標  
 ◎よく考える子（問題解決力） 自ら問いをもち課題に向き合う児童    ○思いやりのある子（人間関係形成力） 自らも人も大切にしている児童    ○じょうぶな子（健康管理能力、体力） 自分から体を鍛える児童  
 ○進んで実行する子（実践力） 前向きに行動する児童    ○よく働く子（社会貢献力） 前向きに行動する児童

目指す学校像（ビジョン）  
 【目指す学校像】 子どもが生き生きと学習し、教職員が使命感をもって教育活動し、保護者や地域が信頼して協力する学校  
 【目指す児童像】 知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る児童  
 【目指す教師像】 専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた授業の充実に努め、子どもの心に灯をともしことのできる教師集団。また、常に思いやりの心と規範意識をもち、児童1人1人を大切にしている教師集団。

前年度までの学校経営上の成果と課題  
 (成約) 9年間を過ごした学習・生活・授業スタンダードを継続・徹底したことで、児童の学習規律が向上した。また、自主学習週間を設定したことで児童の学習習慣が身に付き始めている。新校舎移転を計画に使い、円滑に実施した。  
 (課題) 自ら学ぶ力の向上を目指し、「振り返り」を重視した学習活動及びICTの効果的活用を進めることで、授業改善に努めていく。同時に若手教員の継続した育成を重点項目の一つとして取り組む。

中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	具体的内容(指標)	努力目標(評価基準)		成果目標(評価基準)		分析コメント	改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
				努力目標 中間	努力目標 年間	成果目標 中間	成果目標 年間				
確かな学力の向上	9年間を見通した学習規律、学習習慣の定着を図る。	「中原小学学習スタンダード」を全学級で継続指導し、学習規律を徹底する。 「家庭学習の手引き」の全家庭への配布や自主学習週間を設定等を通して、家庭学習の習慣化を図る。 【学力向上】	○「中原小学学習スタンダード」を教室掲示し、学級指導、授業時間等で児童の達成度のための指導を行う。 ○学年に応じた学習課題を毎日取り混ぜる。課題は学習型の課題を優先する。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 スタンダードに対する児童の達成度が90%以上 3 スタンダードに対する児童の達成度が80%以上 2 スタンダードに対する児童の達成度が70%以上	3	4	4	4	児童全体の約92%が「授業は分かりやすい」と答えた。	A
		「基礎的基本的な学力の傾向を把握し画に応じた指導の工夫をする。 「ノート」の使い方を理解し、工夫して活用できるように指導する。 【学力向上】	○算数ベースッドルを活用し、反復練習に取り組ませる。 ○学年の発達段階に応じて、工夫してノートがとれるように指導する。	4 全学級が計画を実施 3 90%以上の学級が実施 2 80%以上の学級が実施	4 計算診断テストで80点以上の児童が70%以上 3 計算診断テストで80点以上の児童が60%以上 2 計算診断テストで80点以上の児童が50%以上	2	3	2	3	児童全体の約90%が「計算する力がついでている」と答えた。	A
	「児童の学びの傾向を把握し、より分かりやすい、きめの細かい指導を工夫する。 「主体的、対話的で深い学び」を実現するために、「中原小授業スタンダード」の浸透を図る。 【学力向上】	○学年会・分科会で教材研究の時間を設定し、児童が集中して学習できる環境整備を工夫する。 ○「授業スタンダード」を意識し、毎時間、学習のめあて・振り返りを必ず設定する。	4 全学年が計画を実施 3 5学年が実施 2 4学年が実施	4 授業に対する児童の満足度が90%以上 3 授業に対する児童の満足度が80%以上 2 授業に対する児童の満足度が70%以上	3	4	4	4	児童全体の約92%が「授業は分かりやすい」と答えた。	A	
	「ICT機器を効果的に活用して、児童自らが学ぶ力を高める。 【学力向上】	○ICT機器の基本的な使い方を身につけるために、授業以外の時間も触れる時間をもつ。 ○主体的な学びを高めるため、授業改善を行う。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 児童アンケートの肯定的回答が90%以上 3 児童アンケートの肯定的回答が80%以上 2 児童アンケートの肯定的回答が70%以上	4	4	3	4	児童全体の約90%が「タブレット機器の活用をよかった、楽しい」と答えた。	A	
人と人の関わりを通して、思いやりの心と規範意識を育成	あいさつを中心とした言動振る舞いを進めるとともに、いじめを許さない学校づくりを推進する。 【生活指導】	「あいさつを中心として人と関わる力を高める指導を継続する。 「教職員全員でいじめに関する情報を共有し、指導・支援にあたる。」	○あいさつ指導を年間を通して行う。 ○いじめアンケートを年間3回実施するとともに、いじめに関する授業を毎学期1回行い、いじめ防止に努める。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 あいさつに対する保護者の満足度80%以上 3 あいさつに対する保護者の満足度70%以上 2 あいさつに対する保護者の満足度60%以上	3	4	3	保護者全体の約77%が「子どもは挨拶ができる」と答えた。	A	
	9年間を見通し、生活規律を徹底し、きまりを守る態度を育成する。 【生活指導】	「中原小生活スタンダード」を継続指導し、全学級で生活規律を徹底する。	○朝や帰りの会、学級の時間等で、きまりを守る指導を行う。 ○「中原小のきまり」「中原小生活スタンダード」を教室掲示し、月ごと行動を振り返らせる。	3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	3 スタンダードに対する児童の達成度が80%以上 2 スタンダードに対する児童の達成度が70%以上	3	4	4	3	児童全体の約89%が「中原小スタンダードを守って生活している」と答えた。	A
特別支援教育の推進	通常学級とつくり学級との交流を通して、互いの個性を尊重し合う教育活動を進める。 【生活指導】	「交流及び共同学習などで互いを知り、認め合う活動に取り組む。」	○各学期、通常学級とつくり学級で合同学年会を行い、児童の実態に即した交流及び共同学習を計画し、実践する。	3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	3 特別支援教育に対する保護者の満足度が90%以上 2 特別支援教育に対する保護者の満足度が70%以上	3	3	4	保護者全体の約90%が「子どもは思いやりのある行動をとれる」と答えた。	A	
	身体的活動を充実させ運動の習慣化を図る。 【体力向上】	「走力・跳力を基本とし、その他に泳力、握力、投擲力の向上を図る実践をする。」	○縄跳びの強化月間を設け、全校で取り組む。 ○スポーツテストの結果を分析し、学年課題の運動に重点的に取り組ませる。	4 全学級が計画を実施 3 90%以上の学級が実施 2 80%以上の学級が実施	4 毎日外で遊ぶ児童の割合が90%以上 3 毎日外で遊ぶ児童の割合が80%以上 2 毎日外で遊ぶ児童の割合が70%以上	3	4	3	3	児童全体の約80%が「外で元気よく遊んでいる」と答えた。	A
体力的・精神的成長	家庭と連携し、心身の健康および学習についての意識を高める。 【生活指導】	「保健・給食に関わる日常的な指導を実施する。」	○年間2回「元気いっぱいチェックカード」を活用して自分の生活について調べ、振り返りを行う。 ○給食だけでなく「中原ランチ」を活用し、食の大切さを伝える。	3 90%以上の学級が実施 2 80%以上の学級が実施	4 生活習慣に対する保護者の満足度(7+イ)が90%以上 3 生活習慣に対する保護者の満足度(7+イ)が80%以上 2 生活習慣に対する保護者の満足度(7+イ)が70%以上	3	3	2	保護者全体の約70%が「子どもは健康・早起し・朝ご飯に気をつけて生活している」と答えた。	A	
	安全・安心と危機回避能力の育成	「計画的な避難訓練、実際に近い想定での避難訓練の実施によって児童の防災意識を高める。」	○多様な想定による避難訓練を行う。避難訓練後に全学級で振り返りを行う。併せて地区集会や、地区班での避難訓練を実施する。	3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 避難訓練に対する児童の達成度が90%以上 3 避難訓練に対する児童の達成度が80%以上 2 避難訓練に対する児童の達成度が70%以上	3	4	4	4	児童全体の約97%が「避難訓練で安全に気を付けて活動している」と答えた。	A
安全・教育環境の充実	安全で整理の行き届いた学習環境作りを努める。 【生活指導】	「施設・設備の点検整備を定期的に行う。 「登下校指導、日直時の看護当番の見回りを行う。」	○施設・設備の点検整備を毎月1回行う。 ○毎学期に、始めと終わりに登下校指導を行う。また、看護当番が日直りの見回りを行う。 ○移転先でも、同じように実施する。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 施設に対する保護者の満足度が90%以上 3 施設に対する保護者の満足度が80%以上 2 施設に対する保護者の満足度が70%以上	3	4	3	保護者全体の約98%が「学校は設備の点検整備、登下校の安全や不審者対応に努めている」と答えた。	A	
	整理、整頓、清掃の習慣化を徹底し、時間の効率化、業務の効率化を図る。 【教務部】	「机上、机下、棚の整理整頓を定期的に行う。 「時間、業務の効率化のためにルールや掲示版の活用を積極的に行う。」	○学期末などに必要に応じて整理・整頓週間を設ける。 ○回覧板で周知できる内容は、回覧板を活用する。 ○情報共有をこまめに行うことで業務の効率化を図る。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 環境に対する保護者の満足度が90%以上 3 環境に対する保護者の満足度が80%以上 2 環境に対する保護者の満足度が70%以上	3	4	3	教員全員が「安全で安心な学習環境作り」に努めている。「整理、整頓、清掃の習慣化を徹底し、時間の効率化、業務の効率化を図った」と答えた。	A	
業務の効率化	幼稚園・保育園、中学校、地域との連携による教育活動を推進する。 【特活・文化】	「生活科、総合的な学習の時間のねらいに沿った体験活動を行う。 「幼稚園・保育園・中学校との連携を意識した取り組みを実施する。」	○各学年、年2回以上地域人材を活用した体験的授業を実施する。 ○スタータリウムを確実に進め、9年間を意識した生活や学習のスタンダードを確立する。	4 全学年が計画を実施 3 5学年が実施 2 4学年が実施	4 連携に対する保護者の満足度が90%以上 3 連携に対する保護者の満足度が80%以上 2 連携に対する保護者の満足度が70%以上	3	3	3	保護者の約89%が「学校は保護者・地域と協力した教育活動を進めている」と答えた。	A	
	地域に中原小学校の教育を発信することで、理解と協力を得る。 【評価・情報】	「学校からの積極的な情報発信を行う。」	○学校便り(毎月1回)、学年便り(毎月1回以上)、学級通信(随時)、ホームページ(毎月1回)を活用して計画的に情報提供に努める。	4 全教員が計画を実施 3 90%以上の教員が実施 2 80%以上の教員が実施	4 情報発信に対する保護者の満足度が90%以上 3 情報発信に対する保護者の満足度が80%以上 2 情報発信に対する保護者の満足度が70%以上	3	4	3	保護者の約84%が「学校は、積極的に情報提供をしている」と答えた。	A	